

## 2024年度(令和6年度)第1回史跡めぐり

## 山梨県甲府市及び甲州市めぐり

えりんじ  
◎恵林寺

恵林寺は臨済宗妙心寺派の名刹である。元徳2年(1330)に、甲斐牧ノ庄(かいまきのしょう)の地頭職(じとうしょく:領主)をつとめていた二階堂出羽守貞藤(にかいどうでわのかみさだふじ:道号は道蘊 どううん)が、夢窓国師を招き、自邸を禅院とし創建しました。

武田信玄の尊敬を受けた美濃の快川(かいせん)和尚の入山で寺勢を高め、永禄7年(1564)には、信玄自ら寺領を寄進し当山を菩提寺と決めました。天正4年(1576)4月、遺言通り三年間の秘喪の後、武田勝頼は快川国師の導師のもと、父信玄の盛大な葬儀を厳修しました。

しかし、天正10年(1582)3月、勝頼は時運を味方につけることができず天目山下に自刃、甲斐武田氏は滅亡しました。同4月3日、恵林寺は織田信長の焼き討ちにあい、快川国師は「安禅必ずしも山水を須(もち)いず、心頭滅却すれば火も自(おのずか)ら涼し」と言葉を残し、百人以上ともいわれる僧侶等とともに火に包まれました。同6

月3日、「本能寺の変」によって信長が斃れて後、徳川家康の手により復興され、また徳川五代将軍綱吉の時代に甲斐国主となった柳沢美濃守吉保の庇護で寺運は発展、柳沢吉保嫡男の吉里の代に柳沢家は奈良大和郡山に転封となるも、吉保夫妻は恵林寺を菩提寺として霊廟をもうけました。

庭園は鎌倉時代、夢窓国師の作庭で、国の史跡・名勝に指定されており、



甲府八景「恵林晩鐘」に詠まれています。

こうふじょう  
◎甲府城

甲府城は、古くは甲斐府中城、一条小山城、舞鶴城、赤甲城などとも呼ばれていました。天正 10 年（1582）甲斐国は戦国大名・武田氏の滅亡後、まず織田信長の領国となり、本能寺の変の後には徳川家康の支配するところとなりました。しかし、豊臣秀吉が天下統一をなしとげると、秀吉の命令により甥の羽柴秀勝、腹心の部下である加藤光泰らによって築城が始められ、浅野長政・幸長父子によって完成をみました。また、慶長 5 年（1600）関ヶ原の戦い以降は再び徳川の城となり、幕末まで存続しました。

甲府城は江戸時代の初めは、将軍家一門が城主となる特別な城でしたが、宝永元年（1704）時の城主・徳川綱豊が第 5 代将軍・徳川綱吉の養嗣子となり、江戸城西の丸へ移ると、この後に祖先が甲斐出身で側用人の柳沢吉保が城主となり、大名の城として最も整備され、城下町ととも



も大きく発展しました。しかし、吉保の子・吉里が大和郡山城主として転封された後は、甲斐国は幕府の直轄地となり、甲府城は甲府勤番の支配下におかれまして。その間、享保年間の大火により、城の本丸御殿や銅門を焼失するなど、次第にその壮麗な姿は失われていきました。

明治時代になると、甲府城も廃城となり、明治 10 年前後には城内の主要な建物はほとんどが取り壊されました。まず内城全体が勸業試験場として利用されはじめ、さらに翌年、鍛冶曲輪に葡萄酒醸造所が設置されるなど、城郭としての機能は失っていきました。また、現在の山梨県庁が旧楽屋曲輪内に設けられ、中央線敷設に伴い屋形曲輪、清水曲輪が解体されるなど、さらに城郭が縮小され、現在では内城の部分のみが城跡としての景観を保っています。

甲府城は明治に入り、徳川時代の面影を大幅に失うこととなり、残された城跡が明治 37 年（1904）に「舞鶴公園」として開放されました。昭和 5 年（1930）には、甲府中学校の移転に伴い、旧追手役所跡にあった県庁舎

や県会議事堂が楽屋曲輪跡に移り、同時にその西側、南側の堀は完全に埋められました。その後、武徳殿（昭和 8 年）、恩賜林記念館（昭和 28 年）、県民会館（昭和 32 年）、議員会館（昭和 41 年）などが公園内に設置されました。昭和 39 年（1964）には都市公園「舞鶴城公園」として都市計画決定されました。最近では、舞鶴城公園整備事業が行われ、鍛冶曲輪門、稻荷曲輪門などの門や稻荷櫓が復元されました。

### たけだじんじゃ ◎武田神社

武田神社は、武田信玄公を御祭神としてお祀り申し上げております。信玄公はあらためて申すまでもなく、我が国戦国時代きっての名将であります。大永元年（1521 年）当神社の背後に控える石水寺要害城に誕生され、天正元年 4 月 12 日に上洛の夢半ばに信州駒場で 53 歳の生涯を終えますが、21 歳の時に国主となって以来 30 年余、諸戦に連戦連勝を重ねるのみならず、領国の経営に心血を注ぐ中、特に治水工事、農業・商業の隆興に力を入れ、領民にも深く愛されました。

現在でも県民こそって「信玄さん、信玄さん」と呼びならわし敬慕の情を表し、郷土の英雄として誇りともする所以であります。

武田神社は、信玄公の父君信虎公が永正 16 年（1519 年）に石和より移した躑躅ヶ崎館跡に鎮座致しております。この館には信虎・信玄・勝頼の三代が 60 年余りにわたって居住し、昭和 13 年には国の史跡として指定されました。

館跡には、当時からの堀、石垣、古井戸等が残り、信玄公を始め一族の遺香を現在まで伝えると共に、神社創建の折、県内各所より寄進を受けた数百種類の樹木が四季折々の風景を見せます。また、境内にある「三葉の松」は全国でも珍しく、黄金色（こがねいろ）になって落葉することから、身につけると「金運」のご利益があるといわれております。

甲斐の国の守護神であるばかりではなく、やはり「勝運」のご利益が挙げ



られます。勝負事に限らず「人生そのものに勝つ」「自分自身に勝つ」というご利益を戴かれるとよいでしょう。

また、農業・商業・工業を振興されたことから産業・経済の神としても信仰を集め、民政の巧みさから政治家の方々からもまさに神として崇敬を集めております。

## かいぜんこうじ ◎甲斐善光寺

当山は、開基武田信玄公が、川中島の合戦の折、信濃善光寺の焼失を恐れ、永禄元年（1558）、御本尊善光寺如来像をはじめ、諸仏寺宝類を奉遷したことに始まります。板垣の郷は、善光寺建立の大檀那本田善光公葬送の地と伝えられ、善光寺如来因縁の故地に、開山大本願鏡空上人以下、一山ことごとくお迎えいたしました。その後、武田氏滅亡により、御本尊は織田・徳川・豊臣氏を転々といたしました。慶長三年（1598）信濃に帰座なさいました。甲府では新たに、前立仏を御本尊と定め、現在に至っております。

江戸時代には、本坊三院十五庵を有する大寺院として浄土宗甲州触頭を勤め、徳川家位牌所にもなっておりました。豪壮な七堂伽藍は、一度焼失いたしました。再建され、東日本最大級の伽藍として広く知られております。

また、重要文化財五件・県指定文化財四件、市指定文化財八件をはじめとする文化財の宝庫として著名で、その一部は宝物館等で公開しております。

当山の御本尊は、建久六年（1195）尾張の僧定尊が、秘仏である信濃善光寺の前立仏として造立したものです。定尊は、如来の夢の告げを得て勧進に行脚し、四万八千余人もの寄進を得たといわれます。

本像は、いわゆる一光三尊式善光寺如来像の中では、在銘最古、かつ例外的に大きな等身像として著名です。

善光寺の御本尊は、仏教伝来とともに将来された、生身すなわち、実際に生命が宿っている霊像として深く信じられておりました。

しかし、絶対の秘仏のため、拝むことはできません。そこで、鑄造されたのが、本像であると考えられ、文化史的にもたいへん貴重な存在といえます。



金堂は、善光寺建築に特有の撞木造(しゅもくづくり)とよばれる形式で、総高 27 メートル、総奥行 49 メートルという、日本有数の木造建築として有名で、重層建築の山門とともに重要文化財に指定されております。金堂中陣天井には、江戸の希斎という画家によって、巨大な龍が二匹描かれております。この部分のみは、吊り天井となっており、手をたたくと多重反響現象による共鳴が起こります。これをいわゆる「鳴き龍」と呼びますが、当山の鳴き龍は日本一の規模を持ち、参拝者に親しまれております

金堂下には、「心」の字をかたどる、お戒壇廻りもあり、鍵を触れることによって、御本尊様と御縁を結んでいただけます。

## 2024年度 第2回史跡巡りお知らせ

- 場 所 …… 群馬県富岡製糸場または 静岡県丸子宿の丁子屋  
で食事後宇津ノ谷峠の明治時代のトンネル見学  
埼玉県川越を検討中。
  - 日 時 …… 令和6年10月11日(金)を予定  
詳しくは会報・区報をご覧ください。
  - 参加費 …… 維持会員9,000円 一般11,000円  
(昼食、入館料、傷害保険料を含む。)
  - ◎ 申込み …… 維持会員：9月上旬  
一般区民：9月中旬  
平日の午前9時～午後4時まで
- ※ 教育センター分室内・中野区教育振興会事務局へ  
参加費を添えてお申込みください。
- ※ 電 話 (直通) 3 2 2 8 - 5 5 4 4